

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
再生普及行動計画ワーキンググループ(第12回) 議事要旨

日時：平成19年11月16日(金) 18:30～20:30

場所：釧路地方合同庁舎 5階 共用第一会議室

【出席者(敬称略)】

再生普及行動計画ワーキンググループ構成メンバー

<個人(所属)>

- ・ 清水信彦
- ・ 新庄久志(釧路国際ウェットランドセンター)
- ・ 永瀬 知志

<団体(出席者)>

- ・ NPO 法人釧路湿原やちの会(雑賀重二)
- ・ 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 (森義紀)
- ・ 釧路市民活動センターわっと(成ヶ澤茂)
- ・ ボランティアネットワーク・チャレンジ隊(酒田浩之、佐竹直子)

<関係市町村(出席者)>

- ・ 釧路市 (環境政策課/福田芳弘)

<関係行政機関(出席者)>

- ・ 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
(所長/北沢克巳、国立公園・保全整備課/川淵義昭)
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
(所長/中島章文、自然再生指導官/白藤末人)
- ・ 北海道釧路支庁 (地域政策部環境生活課自然環境係/小野寺道幸)
- ・ 北海道教育庁釧路教育局 (社会教育指導班/岩崎摂也)

再生普及小委員会(所属)

<個人(所属)>

- ・ 高橋忠一 (北海道教育大学釧路校)

再生普及行動計画ワーキンググループ事務局

- ・ 環境省北海道地方環境事務所 釧路湿原自然保護官事務所(露木歩美)
- ・ 財団法人北海道環境財団(久保田学、山本泰志、内田しのぶ)

【議事概要】

事務局 第12回再生普及行動計画ワーキンググループ(以下「行動計画WGと表記」)を開催する。(資料確認後、新庄座長による進行。)

議事1 ワンダグリンド・プロジェクト2007 中間報告

座長 先日、仙台で行われた東日本の自然再生事業に関する報告会に出かけた。そこでのテーマの1つが、どのように住民を巻き込んでいくか、広報していくかということであり、ワ

ンダグリンドのパンフレットを配布したところ大変話題となった。釧路はやはり先駆モデルであると注目を集めた。募集チラシを準備していなかったが、それを配布すればワンダグリンドに対するイメージがもっと沸いたと思う。次回もこうした会議が行われる時には是非環境省から報告書等を持って行って宣伝してもらいたい。全国でも注目されているので、今後もよろしくお願ひしたい。では、議事 1 について、事務局からの説明を求める。

事務局（資料 1-1、1-2 に沿って説明）新規応募者は 2 個人あり、38 団体・個人、63 取組みになった。（資料 1-3 に沿って説明）各取組みの進捗状況を「活動中」「終了」「予定」などで表している。先に報告した新規応募 2 個人についてはゴシック体で表している。（資料 1-4 に沿って説明）昨年度に習うような形で掲載しているが、「ねらい」については応募用紙の書式とそろえ、マルをつけてもらうようにした。裏面は記入例を記載している。今回は主催者の感想欄で、ねらいの達成度を記入していただくようにしている（感想記入例参照）。参加者にワンダグリンドのねらいを意識してもらうきっかけとしたい。これらのフォーマットで取組み報告を依頼する予定である。

座長 新規応募、伊勢さんの「折鶴」とはどんなものか。ご覧になった方はいるか。

委員 色のついた紙で折った鶴で背中に吊り下げる紐がついている。紐には釧路湿原 20 周年と書いてある帯が付いている。この方はよく温根内ビジターセンターなどに来られるが、その際に来訪者・観光客の方に差し上げるなど、様々な場所で配られている。

座長 もう 1 名、「さとぼん」とはどんな方か？

事務局 2005 年度、2006 年度にもご応募いただいていた方。今年度は募集時に躊躇されていたが、その後改めて応募された。報告書にも過去の取組みが掲載されている。

座長 資料 1-4 について、報告フォーマットの「ねらい」という欄でマルを付けてもらう、またそれに対する自己評価も入れていただいていたのではどうかという提案があった。これまでの説明内容等について、ご意見や質問等あればいただきたい。

委員 知名度調査の集計は？

座長 後の議事 4 で報告を行う予定である。

議事 2 ワンダグリンド・プロジェクト 2008 募集（案）について

事務局（資料 2-1、2-2 に沿って説明）昨年は募集チラシを事務局で作成させていただいたが、今回は WG の皆様からご意見をいただきたいと思いチラシ案を提示した。（資料 2-3 に沿って説明）応募フォーマットと記載例からなる。昨年と同様で特に変更点はない。本年度の応募フォーマットの黄色い用紙を参考資料として机に配らせていただいている。

座長 2008 年度募集案として、募集ポスター・チラシ案がある。これについてご意見などあればいただきたい。デザインされた方は今日出席されていますが、なにかコメントありますか。（特になし）

委員 今回は表紙が 3 人で、男子が入って嬉しい。カメラがプロ仕様ですごい。

座長 冒頭でお話した仙台での意見交換会でワンダグリンドの話をしたところ、参加者のメリットは何かと聞かれたが、環境省の人はステータス、活動広報やロゴをもらえるなど話されていた。賞をあげたりはしないのかという質問もあった。次年度募集について、宣伝方法なども昨年と同様にということであるが、他に提案などあればいただきたい。学校への

宣伝について、教育委員会からみてこの方法で学校に協力いただけるものか。

委員 十分だと思う。

座長 それでは、これで進めたいと思う。今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いしたい。

議事3 今後のスケジュールについて（案）

事務局（資料3に沿って説明）資料中の再生普及小委員会の開催は2008年1月に訂正をお願いしたい。

座長 これについてご質問や意見などあればいただきたい。報告書について、緑、青と色を使ってきたので3冊目は色を考えないといけない。また、報告書完成のお披露目座談会を開催するということであるが、皆さんからご提案等あればいただきたい。座談会は身内が目立つが、一般の人にもっと広めてはどうか。一般の方でも報告書を知らない人もいる。一般の人には配布しているのか。

事務局 希望する方に配布している。

座長 どのように知らせているのか。

事務局 ホームページで紹介、完成時に新聞で告知、市民活動センターわっとでの配布を行っている。

座長 多くの人にこの報告書のことを知ってもらうため、取組み募集時と同様に各種媒体で報告書の発行・配布について告知してはどうか。

事務局 今後行っていきたい。

議事4 知名度調査アンケートの結果

座長 それでは、議事4について事務局より説明をお願いしたい。

事務局（資料4に沿って説明）

座長 知名度アンケートの結果を報告いただいたが、感想や質問などあればいただきたい。

委員 設問2（自然再生事業を聞いたことがあるか）で温根内ビジターセンターは50%となっているが、設問4（ワンダグリンド・プロジェクトを聞いたことがあるか）では少なくなっている。設問2の状況からするとワンダグリンド・プロジェクトを知っている人が少なすぎるのではないか。温根内ビジターセンターなどではワンダグリンドに関するポスターなど貼っていないのか。

事務局 掲示はしているが、目立ったところにはないので気づかないと思われる。

座長 釧路駅やジャスコはどうか。

事務局 貼っていない。

座長 これらにも貼りだしを依頼してはどうか。他に感想等あれば。

委員 ワンダグリンド・プロジェクトの知名度がまだ低い。今後もっと伸ばせるのではないか。

座長（設問4では）活動に参加したいという人はいる。体力的な問題というのはなにか。

事務局 年配の方からの回答であった。

座長 来年実施するとさらに面白い結果になるかと思う。次に議事5について、事務局より説明をお願いしたい。

議事 5 再生普及行動計画の中間検討

事務局 今年でワンダグリンド・プロジェクトは3年目を迎え、今回はその中間検討を行いたい。後ほど、これまでの活動についてみなさんからご意見や感想をいただく作業をお願いしたい。資料5について、事務局の内田より説明をお願いしたい。

事務局（資料5に沿って説明）活動団体からの声として、ワンダグリンド・プロジェクトへの参加メリットが感じられないとよく聞かれる。募集チラシ等にも記載しているが、団体にとってそれがメリットと感じられないのではないかと思う。資金面での支援やグッズの配布など、はっきりしたメリットの必要性が求められているように思われる。

座長（資料5のグラフより）「4 情報公開と合意形成を進める」と「9 湿原を訪れる人のサービスを改善する」の取組み数が少ないことがわかる。それでは、今後の作業について事務局から説明をお願いしたい。

事務局 テーブルに付箋と筆記用具を配布させていただいている。会場壁に張り出した模造紙に書かれたテーマ2種（ワンダグリンド・プロジェクトを取り組む前後で変化したこと、ワンダグリンド・プロジェクトについて意見や問題点など）について、みなさんの感想などを記載し模造紙に貼り付けていただきたい。それらを材料としてその後検討を進めたい。

座長 テーブルが3つの固まりになっているので、そのテーブルのグループごとに意見交換や話し合いをし、それらの意見をまとめて各グループに貼りだしてはどうか。その後各グループが貼りだした意見について発表してもらいたい。それを材料にして議論を進めていきたい。

* * * 参加委員にて作業（約20分）・各グループから貼り出し * * *
（貼りだされた意見は別紙参照）

座長 それでは、各グループより発表をお願いしたい。

グループ1

テーマ：ワンダグリンド・プロジェクトについて意見や問題点など

ワンダグリンド・プロジェクトとして、日時を決めて統一したテーマで行事を行ってはどうか。またはワンダグリンドが主催者としての行事を組めないか。例えば清掃活動は取り組んでいる団体が多く、日程を決めて一斉に各所で各団体を実施すれば関心度も高まり、ネームバリューが違ってくるのではないか。

アンケート対象の数を増やす。アンケートすることで普及につながり、市民の意識が高まるのでは。

ワンダグリンド・プロジェクト募集の切手を作成して全国へ発信してはどうか。

ワンダグリンドを多くの人に知っていただく行事を行ってはどうか。

座長 切手は良いと思う。

委員 以前、切手作成は提案したことがある。作れば売るわけなので、どのようなお金の出所にするか、売ったお金をどうするかが問題である。例えば市が100万で切手を作ったとして、ワンダグリンドに寄付したとして、売ったそのお金はどう扱うかといったこともある。

オリジナル切手作成には、1シート80円切手10枚で1200円くらいかかると思う。鶴居・伊東タンチョウサンクチュアリでも開設20周年記念事業として作成していた。

委員（鶴居・伊東タンチョウサンクチュアリの場合）2000円寄付すると1シートもらえる。これはあくまでも寄付。

委員 はがきを作っても良いのではないか。

座長 そういうことをしていただける人にも加わっていただけたらと思う。

グループ2

テーマ：ワンダグリンド・プロジェクトを取り組む前後で変化したこと

報告書を見ることで、ささやかな活動でも参加して良い、ということがわかる。

テーマ：ワンダグリンド・プロジェクトについて意見や問題点など

湿原に出かけた際、雨が降ったら施設で傘等借用できる、借りたものを他の湿原周辺施設でも返すことができるなど、おおがかりなことではなく、ちょっとした後押しが出来るといいのではないか。湿原に関する様々な相談ができるなど。

再生事業が始まる前から活動していた人々が、これまで関わりがなかった新しい人々の参加を促しているのかわからない。

道外から来る人たちに対して、航空会社の協力を得てお知らせしていけたら良い。

座長 質問等あるか。釧路に関係のある航空会社はJAL、ANAがある。

委員 釧路ではこんなことをやっていますよという程度でも宣伝ができればいい。

委員 釧路湿原の知名度があがれば人が多く来るということなので、航空会社も利点があるのではないかと思う。そういった点でも少し協力いただけたらと思うがどうか。

座長 空港に野生生物のモニュメントなどあるが、そういう点で再生事業にご協力等いただければ良い。いろんな所でやっている事に声をかける必要がある。

グループ3

テーマ：ワンダグリンド・プロジェクトを取り組む前後で変化したこと

意識が変わった。再生事業というものを漠然と言葉では知っていたことを自分でも勉強するようになった。

参加することでネットワークが広がっていった。各団体の活動取材をして話しをしていくうちにその先の新しい展開などにもつながっていった。

テーマ：ワンダグリンド・プロジェクトについて意見や問題点など

今までやっていることでも登録できるということをもっとアピールしたい。

また、湿原と親しむことをワンダグリンドとしたが、直接的な再生事業についての普及ももっと必要ではないか。例えば、登録団体向けの直接的な再生事業の勉強会など。

ワンダグリンドでの統一したイベントがあれば良いのではないか。新しいものをつくらなくても、持ち回り制でも良いのでできると良い。

ポスターなどのほかに残るものがあれば良い。例えば、体験で自ら缶バッジを作るなど。

機械があれば作成は簡単であり、そういうイベントの協力をしていただける方を募集す

るということもどうか。

最初は登録することから始めたが、3年目ともなったのでそれぞれの活動の中で共通のものがあっても良いかと思う。もう少し踏み込んだ活動があってもいいのではないか。

座長 結果的には、共通したような意見がでた。せっかくネットワークが広がってきたので何か共通したことを実施する。それが必要な時期になってきた。また、再生事業と直接的な普及も取り組み始めても良いだろう。新しい参加者を取り込んでいける仕組み、それがお互いのメリットにつながることを伝えてゆくことなど。これらを受けて次にどうするかを検討する必要があるが、今回はここまでということで。

事務局 みなさんからいただいた意見を受けて、今後5ヵ年計画の残り2年間にどのようなことをしていくかを検討していきたいと思う。今まで広くさまざまな取組みを募集し情報発信してきたが、これらをいかに実にしていくか、そのためになにを行えばよいか、不足していることは何か、また5ヵ年の次は何を目的とするかについて考えていく必要がある。また行動計画WGで知恵を出し合っていたらと思う。

座長 4年目、5年目に向けて、ネットワーク全体で何かやってはどうか。例えば、WGでも実際に湿原に行ってみるなどの企画を考えてみるというのはいかがか。赤沼は行かれたことがあるか？温根内ビジターセンターから歩いていけるが勝手に行くことは出来ず、釧路開発建設部や環境省の許可があるが、この行動計画WGの事務局は環境省がやっているので可能ではないか。静かな場所に行き、湿原の良さを感じながら会議をするなどもありかと思う。そうしたいろいろなことを検討して提案させていただきたい。そうしたことは、今後いろいろなことをやっていく材料にもなるかもしれない。

それでは進行を事務局にお返す。

事務局 そのほか情報提供などあれば。

事務局 省エネキャンペーンの記入協力の説明

事務局 これで第12回行動計画WGを終了させていただく。

以上

【別紙】 議事 5 再生普及行動計画の中間検討 意見一覧

□ : テーマ

➤ : 付箋で書かれた意見

ワンダグリンダを始める前後で変化したこと

- 意識が変わった。再生事業はばくぜんと思っていたが勉強するようになった。
- ネットワークができた
- 「こんなことでも参加できるんだ」と気が楽になった。

ワンダグリンダ・プロジェクトに対する意見・問題点

- 登録団体の見本市ワンダグリンダまつりをやろう
- ワンダグリンダとして年に1回は各参加団体に日時を決めて同じ行事を行っては。例) 清掃、植樹、ウォーキング、観察会兼クイズラリーなど
- 同じテーマの団体が各祭事を行うとき、他の団体や個人・学校も含めての連携ができるか (コーディネート)
- ワンダーランド・ナチュラは次年度も開催するのか？ならば湿原周辺施設でできないか
- 湿原、ワンダグリンダをたくさんの人に知ってもらうイベントの開催 多世代の人が楽しめる多様な興味・関心に応えるもの ワンダグリンダ参加者から募る サイエンス屋台村的に体験活動を開催
- 身近な今やっているちょっとしたことでいいんだ、ということをもっと伝える
- 登録団体がもっと勉強すべきではないか
- 関係の無かった団体の参加を促すことができていない
- アンケート調査を普及行動計画 WG としてとり組み、もう少しアンケート数を増やす。それが宣伝・意識付けにもなる
- 缶バッチ作成 (経費削減のため手作り)
- ワンダグリンダ・プロジェクト募集の切手を作成して全国へ
- 朝日・夕日を見るツアーはいかが (釧路は世界3大夕日の一つ) 初冬～春までが美しい
- ささやかな支援体制をつくる
- 直接的な再生事業の普及ももっと必要ではないか
- 航空会社からの参加を働きかけたい